



引抜加工で生まれる異形品

山陽金属鋼業 株式会社

加工に耐え得る 高品質な引抜磨棒鋼

- 海外発注可
- 企画力有
- 企自信有
- オンライン技術
- メロイジャパン
- 産地量対

業務内容

群を抜いた安定品質で
取引先選ばれる

自動車パワーステアリング用のラックバー、産業機械用LMガイドのレールやブロック等に使われる「引抜磨棒鋼」。これを製造しているのが山陽金属鋼業だ。特にラックバーに関しては、年間600万台分にも及ぶ数量を製造している。

引抜磨棒鋼はその名の通り、鋼材を型に通し、しごいて引き抜く鉄鋼2次加工品だ。同業他社もある中、部品メーカーや機械メーカーが同社の材料を選ぶ理由は、引抜磨棒鋼で最終製品を加工する時に不具合を出さない「安定品質」、そして、LMガイドに代表される「異形」の材料をつくり出せるところにある。

強み

「最適材料」「精密異形」
を実現する加工法

例えばラックバーは、外見上は単なる丸い棒だが、引抜加工時等の応力によって曲がりやひずみ等が生じ、それが部品の製造工程で問題を起す場合がある。この応力を極力少なくする加工法を長年かけて編み出しているのが同社の強みだ。「取引先の生産現場を直接見せていただきながら、その現場に最も適した材料を製造できるよ



長年のノウハウが詰まった設備

細かいノウハウを投入しています」と河田社長は話す。

LMガイドについても、高品質な異形を安定的に生産することに注力。金型への負担を極力減らす工程設計によって、ただでさえ加工が難しい繊細な異形を、品質を安定させながら量産している。

生産ネットワーク

同業他社と連携し
技術を共有

引抜磨棒鋼は圧延材から加工するのが通常だが、同社は一般鋼材から製造するノウハウを確立しており、大幅なコストダウンを果たしている。

また、こうした技術を1社で独占せず、ものづくりで共感できる同業他社にもレクチャーすることで、同社だけで引き受けきれない量を受注した時、生産協力を要請できるネットワークを整えている。これによって、受注量に増減があっても、取引先の納期やコストの要望に応えることができるのだ。

今後の展望

海外進出を視野に
国際競争力のある体質へ

30年前から海外との取引を開始しており、現在は売り上げの30〜40%が中国、韓国への輸出だ。今後は輸出だけにとどまらず、中国での工場設立も検討しつつ、為替や世界の経済事情に柔軟に対応できる体質の強化を図るといふ。ただし、技術はメイドインジャパンの品質を保持。社内での自主研究活動や海外研修によって若手の人材育成に励みながら、「クオリティの高いものづくり」を日本のブランドとして世界に売り込みたいと意気込む。

COMPANY PROFILE

山陽金属鋼業株式会社

ISO 9001



創業から60年、一貫して「当社ならではの価値」をお客様に提供することを目指してきました。他社と差別化するためには何か必要かをいち早く察知し、お客様と共に高精度で使いやすい引抜磨棒鋼をつくり上げることで、信頼いただける企業として操業を続けてきました。さらに技術力を高め、世界市場でも活躍できる鋼材加工メーカーとして躍進していきたいと考えています。

もはや、国内の企業同士で争っている時代ではなく、ライバルは海外企業です。

代表取締役社長 河田 一郎さん



■主な事業内容
各種鋼材を引抜加工した引抜磨棒鋼の製造・販売等

■主な取引先(納入先)
自動車部品メーカー(パワーステアリング)、機械部品メーカー(直動案内機器)、鉄鋼部門商社等

住所/〒581-0092
八尾市老原4-155
TEL/072-949-5701
FAX/072-949-5707
創業/昭和26年9月
設立/昭和26年9月
資本金/4,500万円
従業員/58名

<http://www.sanyo-metal.co.jp/>